

東北支部学術講演会

講演 I

座長集約

国立病院機構宮城病院 立石 敏樹(Tateishi Toshiki)

令和3年度学術講演会は、東京オリンピックを前に、一般のワクチン接種はじまっており、東北地区では緊急事態宣言はだされてはいないが、第5波が警戒されるため、Webにて行われた。

感染拡大の中、最前線で業務に従事している現状を踏まえCOVID-19に関連する内容で行われた。講演1では、日本放射線技術学会東北支部医療安全班山形県立中央病院の荒木隆博氏より、2020年8月から9月に行われた「放射線検査領域におけるCOVID-19対応調査」の報告が行われ、山形県立中央病院での対応も含め解説していただいた。詳しい内容は、東北支部雑誌30号に掲載されているので、ご参照願いたい。

また、感染拡大状況の中、学会、研究会の開催の形が変化してきており、会場参加型ではなく、Web参加型が中心へとようになってきている。Webのツールもたくさんある中で、どのツールが使いやすいか、また、セキュリティーがどうなのかといった疑問点が多いと思いき、どのようなツールがあり、どのように使用するべきかということで、医療情報分科会長の立場でもある東北支部長の坂本博氏に「コロナ禍におけるwebinarの活用法」というタイトルでご講演いただいた。

COVID-19禍で色々な環境が変化してきており、このニューノーマルな時代をどう対応していくかということで、2人の講師にご講演いただいた。この内容を基に、環境の変化に対応した最適な選択を行って今後の業務に生かしていただきたい。